

# 令和4年度相談支援従事者現任研修事前課題作成要領

## 1. 事前課題について

受講者自身が現在担当中である障がい者（児）を実践例として、以下の資料を作成してください。

- ①事例検討シート                      ②サービス等利用計画                      ③アセスメント表  
 ④事例報告書                              ⑤エコマップ                              ⑥個別の資源マップ  
 ⑦地域変革のためのヒアリングシート

※同一事例で作成してください。

※①は模造紙（四六判 788mm×1091mm）2枚で作成してください。

※①の参考作成例、②～⑦の各様式は島根県福祉人材センターホームページに掲載しています。

### 【参考】研修の流れ

事前課題	受講者自身が現在担当中である利用者とかかわりながら、事前課題①～⑦を作成
前期（1日目）	講義
前期（2日目）	講義〈個別相談支援〉 グループワーク 一人当たり40分間×グループ人数分実施 ・自身の事例を課題①を使いながら概要説明（5分間） ・アセスメント（20分間） ・課題整理（15分間） 課題や手立てを出し、整理・優先順位付け
実習1	前期（2日目）で確認された支援を実施し、実習報告書①、ストレングス・アセスメント票（模造紙）を作成
中期	講義〈チームアプローチ〉 グループワーク ・実習1で実施した内容やエコマップ、地域資源マップ、ストレングス・アセスメント票を用いて、一人20分で相互評価・意見交換 支援会議 ・各グループでチームアプローチの視点から1事例選定の上実施 グループワーク ・チームアプローチの重要性、各自の今後の展開について意見交換
実習2	各（自立支援）協議会に参加し、実習報告書②を作成
後期	講義〈スーパービジョン〉 ピアスーパービジョン ・実践してきた事例により3人一組で実施 講義〈コミュニティワーク〉 グループスーパービジョン ・各グループでインフォーマル資源の活用の視点から1事例選定の上実施 グループワーク ・地域資源の開発、活用方法について意見交換

※実習1及び2の内容については、前期（2日目）に説明します。

## 2. 方法・留意事項について

(1) 以下の要領に従い、実践例を選定してください。

- ア) 受講者自身が現在担当中である障がい者（児）の実践例であること。
- イ) 在宅生活もしくは地域移行に関する実践例であること。
- ウ) ケアマネジメント手法を用いた支援の実践例であること。
- エ) 本人・家族と受講者のほかに、複数の人が関わっている実践例であること。
- オ) インフォーマル資源をすでに活用しているか、今後活用したいと考えている実践例であること。

※以下に該当する実践例は本研修には不適であるため、選定しないこと。

- ・すでに終結している実践例、本人等との関わりを持つことが困難な実践例
- ・自分が担当していない実践例、他人から借りた事例・架空の事例
- ・入院又は入所中で退院や退所の見通しが立たない実践例
- ・危機介入、虐待（疑いを含む）対応が必要な実践例

(2) 実践例の選定にあたっては、本人の了解を得てください（同意書の添付は不要です。）。

(3) 提出様式作成にあたっては、本人等が特定できる可能性のある情報をすべて伏せてください。

- 例 本人、家族、関係機関はすべて仮名とすること。（例：しまねたろう、しまね病院）  
住所はアルファベットで記載すること。（例：「A市」や「B町」）  
生年月日は生年のみ（例：「昭和30年」）とすること。  
電話番号は一切記入しないこと。

※現実的な仮名や仮の電話番号を記載している場合は、誤って本名等を記載しているかの確認をしないでなりませんので、一切おやめください。

## 3. 提出方法

課題②、③、④、⑦をA4サイズ、課題⑤、⑥をA3サイズで印刷し、課題順に重ね、左上をゼムクリップで留めたものを2部、前期2日目のグループワーク時に各グループのファシリテーターへ提出してください。

なお、課題①を含め、原本は自分用として持参してください。

## 4. 留意点

- (1) 提出書類の原本は、ご自身で保管してください。
- (2) 提出書類には、必ず記名してください。
- (3) 提出分の書類は返却しませんが、細心の注意をもって取り扱います。
- (4) この事前課題もカリキュラムの一環であり、修了要件の一つです。指定された事前課題を提出されない場合は、修了したと認定されないのので、注意してください。